

リゾート会員権 3割高

7月平均300万円超 密回避の需要続く

リゾートクラブの会員権の高額取引が活発だ。販売仲介のe会員権(横浜市)では7月の平均価格が300万円超と、ここ20年ほどの最高値になった。新型コロナウイルス禍の密を避けて過ごしたい富裕層の買いが続くうえ、最近の相場高で「今が売り時」とみた高額会員権の保有者による売却も旺盛になったためだ。ゴルフ会員権も高額化が進む。

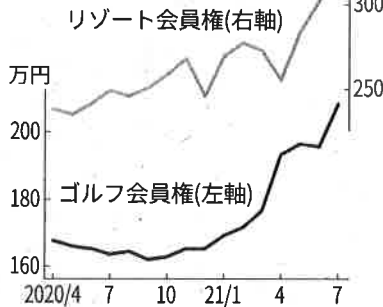
ゴルフも高額化進む

e会員権によると、7月の平均価格は6月比8・3%高の327万円。6月に302万円と同社が2003年に調査を開始してから初めて300万円を超え、7月はさらに上昇した。20年7月と比べ3割高い。背景には、高価格帯商品への需要が底堅いことがある。6、7月の取引



首都圏に近い施設が人気(神奈川県箱根町)

旅行・レジャーの受け皿として平均価格は上昇



(出所)リゾートはe会員権。ゴルフは関東ゴルフ会員権取引業協同組合で、21年4月から税込み表示

はいずれも100万円以下の低価格帯が4〜5割と最も多いが、次いで大きな割合を占めたのが300万円以上の高価格帯だった。e会員権の浦井智子代表は「海外旅行ができない富裕層などが、密を避けて滞在できるリゾート

に目を向ける流れが昨年半ばから続いている」と話す。東京から行きやすい首都圏近郊などの高価格帯の人氣が根強い。個別の施設では、エクスプレッソ(長野県軽井沢)など300万円以上の価格帯でここに来て最高値が相次ぐ。東急ハートランド(神奈川県箱根町)が前月の600万円から7月に725万円まで上昇するなど、高価格帯が全体をけん引する。会員権相場の上昇を受

け、売り手の売却意欲が高まったのも足元の特徴だ。昨年は需要に対して売りに出る会員権が少なかったが、品薄で相場が上昇したことを受け、高値のうちに売ろうとする動きが増えている。「売り手が少々強気な価格を設定しても買い手がつく状態だ」(浦井代表)。売却で得たお金のほかの施設の会員権の買い替えのほか、ほかの高額消費や資産投資に振り向けられているとみられる。ゴルフ会員権も高額化が目立つ。関東ゴルフ会

員権取引業協同組合(東京・千代田)がまとめた7月の関東圏の会員権の平均価格(主要150コース)は208万5千円。前月比で6・8%高く、消費税を含んだ総額表示に切り替えた4月以降、4カ月連続で190万円を超えた。仲介大手の桜ゴルフ(東京・中央)によると、300万円以上では4・9%高、500万円以上では4・5%高とそれぞれ上昇した。佐川八重子社長は「多くの旅行やレジャーがまだ難しい分、

密を避けられるゴルフを楽しむ動きが根強い」と指摘。名門コースで入会預託金の減額など条件緩和が相次いでいることもあり、「少しお金を積み増して高価格帯に買い替える人も多い」と話す。コロナ禍は依然歯止めがかからない。ワクチン接種は進むものの観光市場の全面回復には時間がかかる。海外旅行など消費の選択肢が狭いなかで富裕層を中心にカネ余り状態は続き、リゾートやゴルフなど会員権取引は当面堅調とみられる。